



自由に行き来する流り處  
季節がくるたび移り変わる

# クワツラヘラサギフライウェイ子ども交流 プロジェクトの国内外発信

足元の生きものを考えたりして、  
クワツラの音を立てて  
歴史の話をして、季節の話をして

同じものを  
感じる

足元を  
感じる  
クワツラ

季節の流り引きこ使う  
イザミ受けまきかいる年0歳

太陽に照らされて温まった  
三海水  
がうにうにする  
鹿島の手廻り休んでいる

くまの家の目

生きものの死が  
むらがる



# 主な活動

## クロツラヘラサギの個体と人をつなぐ指輪



現在指輪をつけているメンバーは  
東アジアを中心に世界中に約500人

クロツラ週報

現地訪問・交流

研究・啓発

子ども交流会

credit by the Black-Faced Spoonbill A's picture

Link:<https://bfsn.bfsa.org.tw/bandbfs.php?&L=J&N=15&C=>

# 活動のビジョンとミッション

## Vision

クロツラヘラサギが平和に舞う世界を人々が大切に思い、次の世代に受け継いでいく社会

## Mission

- ① クロツラヘラサギと人をつなぐ
- ② クロツラヘラサギが教えてくれる自然と社会のつながりを学び、伝える
- ③ クロツラヘラサギと人々がともに生きる未来を考え、行動する



## 企画について(概要)

フライウェイ子ども交流会での発見

「場所に根付く人々が、フライウェイの中で国境を超えて個人としてつながり合うことの重要性」

環境関連条約等の国際会議における子ども交流会の発信

子ども交流会の学術的発信による分野横断的アプローチの推進

生きもののつながりの中で各湿地を保全していく必要性を再度共通認識にする  
各地域の社会状況や文化を踏まえて誰がどのように保全していくかを議論していく状態

絶滅危惧種の渡り鳥「クロツラヘラサギ」が渡る韓国、日本、台湾などの地域（フライウェイ）において、多世代の人々が交流し、協力し合い、自然環境が継続的に保全されていく

# 「フライウェイ子ども交流会」第1期

参加地域：カンファ、福岡、八代、沖縄 計4地域



## 1回目@福岡

2024年12月22日(日)

- 福岡・八代の湿地紹介
- 1人1分自己紹介



## 2回目@沖縄

2025年3月2日(日)

- 沖縄の湿地紹介
- お互い質問コーナー
- みんなの地域ではクロツラヘラサギをなんて呼ぶ？



## 3回目@カンファ

2025年6月22日(日)

- カンファの湿地紹介
- 今年生まれたクロツラヘラサギのヒナに名前をつけよう！

# 「フライウェイ子ども交流会」第1期

参加地域：カンファ、福岡、八代、沖縄 計4地域

- フライウェイ上で個人と個人としてつながり、友達になることができた
- クロツラヘラサギのフライウェイを実感し、フライウェイ上にいる友達がいる地域、自分自身の地域に関心を持つようになった
- 自分自身も自然のつながりの中にいる一人であり、影響を与えることができると認識した
- 各地の協力団体間に協力関係を築くことができた



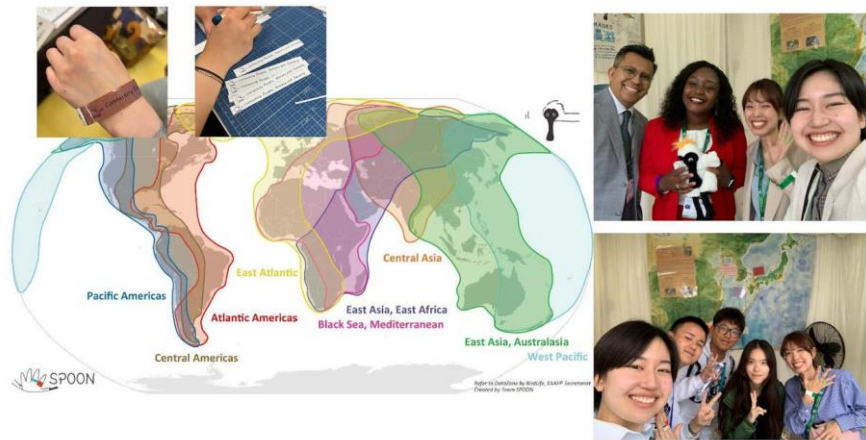
# 助成頂いた活動

ラムサール条約COP15エキシビションへの出展	2025年7月23日～7月31日
EAAFP MOPでのサイドイベント実施	2025年11月9日～14日
Pacific Rim Community Design Network会議	2025年12月10日～11日



# ラムサール条約COPへの出展

## フライウェイ リストバンド WS



- 世界には9つのフライウェイがある
- 誰もがそのいずれかに所属している
- どのフライウェイに所属しているかを聞き、フライウェイ リストバンドをつけてもらった
- 「会場で同じバンドを付けた人=同じフライウェイの仲間」を可視化

## 子ども交流会について展示



## ミニワークショップ

以下の方が参加し、子どもたちの声を届けるためのネットワークを形成することができた。

- EAAFP Youthタスクフォース代表（1名）
- 国際湿地保全連合（2名）
- 藤前干潟ユース（3名）に参加



# EAAFP MOPでのサイドイベント実施

## 『クロツラヘラサギプーの手紙』の 多言語輪読ワークショップ

- EAAFPクロツラヘラサギ作業部会と共催
- 参加者：32名（東アジア・オーストラリア  
フライウェイの専門家・行政官など）



- 日本語、韓国語、中国語、英語で書かれた、クロツラヘラサギの物語を一人1ページずつ、馴染みのある言語で読んでもらう。
- 会議は英語で進行されるが、WSの間は様々な言語が聞こえる。
- 異なる土地で違った言葉を持っている人が集まり、クロツラヘラのいる風景を大切に思っていることが実感された。



# ラムサール条約COP・EAAFP MOPの成果

EAAFPクロツラヘラサギWGとの連携



EAAFP Youthタスクフォース、国際湿地保全連合、藤前干潟ユース等とのネットワーク構築



ラムサール条約事務局長Dr. Musonda Mumba氏からの活動評価



# Pacific Rim Community Design Network会議での発表

発表タイトル：

渡り鳥“クロツラヘラサギ”を通して、人と自然と社会をつなぐ—スケールアップのためのプログラムデザイン  
Connecting People, Nature and Society Through a Migratory Bird “Black-faced Spoonbill” : Program  
Designed for Scaling Up



# 2025年度の成果と今後の活動

## 【2025年度の成果】

- 子どもたちが生きものの圏域でつながったこと
- 国際的なネットワークを構築したこと
- 生きものの圏域でつながる価値を国際的にも共有したこと
- 子ども交流会を継続していくための大人のネットワークの構築

第二期子ども交流会を通じた  
活動の拡張

同窓会によるフライウェイのつながりの  
継続と次世代連携の土台の構築

不安定化する国際情勢下における交流の継続と国際連携の維持